

破部書林(三冊)

地

大政官文庫		
	七	和
	七	書
	五	
	七	門
三	九	
冊	架	函
		號

内閣文庫		
	七	和
	七	書
	五	
	七	類
一	三	
冊	架	函
		號

内閣文庫	
番號	和 7757
冊數	3 (2)
函號	182 373



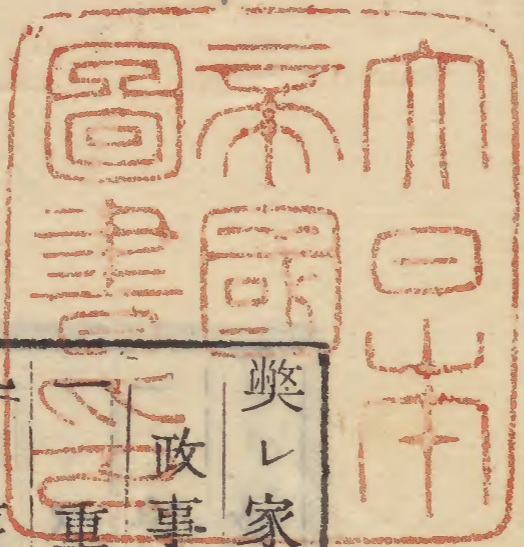
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale

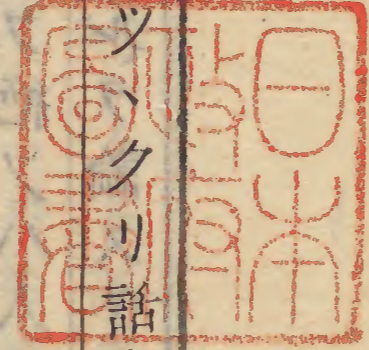


© Kodak, 2007 TM: Kodak





弊レ家ノツ、タリ話卷之中目次
政事篇



三 紀 六 庫

一 重役ハ人ヲ日利スルガ先務タル論

一 良カラザル家老ニ政事ヲ任スレバ其君恥辱ヲ受ル論

一 制度ヲ固ク立ルハ善政ナル事ヲ論ズ

一 事ヲ省クガ善政ナル事ヲ論ズ

一 政事ハ寛ヨリ猛カヨリシキ論

一 賞罰正シキハ眞ノ仁政ナル論

一 賞ノ濫レバ私恩ヨリ來ル論

皮衣
香
卷二

一 愛憎甚キハ賞罰濫ル、論

一 人ヲ使フハ義ヲ勵マスニアル事ヲ論ス

一 君上諫ヲ納ル心得。臣下諫ヲ奉ル心得方

一 酒ヲ戒ルハ國益ヲ興シ惡風ヲ除ク兩全ナ

ルヲ論ス

一 國益ハ農業産業ヲ勸ルニアルヲ論ス

一 賄賂ヲ固ク禁ズルガ國政ノ基本タルヲ論

ス

一 淫祠ヲ絶ツハ人ノ惑ヲ解キ費ヲ除クノ善

政ナルヲ論ス

破レ家ノツ、ク、リ話卷中

丹後逸民、鬼國山人、著

讚南處士、九方生肇、校

政事篇

重役ハ人ヲ目利スルガ先務タル論

君上ハ勿論ナリ。家老重臣ナドノ政事ニアツカ

ル人ハ人ヲ目利スルヲ。己ガ役前ト心得テ然ル

ベキ程ノ大切ノ事ガヲナリ。コノ目利出來ヌ人

ハ其任ニアラス目利サヘ出來レハ賞罰ハ自ラ

ミダレズ勝手取り直シニ付テモ能アル人ヲ用

ルニ。アリトコソ思ハレケリ。又君タル者ハ器量
 入ルモノニ任セオケバ何ヲセズトモ拱手ノ國
 家ハ治ルユヘ。第一ノ仕合ナリ。我邦ノ如キ世祿
 ニテモ其國ノ大小ニヨリ其國相應ニ入ハアル
 へキ筈ナリ。他國ヨリ求メストモ目利サヘスレ
 ハ事ヲカクコトハナカルベシ。サテ人ノ生レツ
 キハ大ナル品等アルモノニテ。譬へハ金ノ位ニ
 生レツキタルモノアリ。銀ノ位ニ生レツキタル
 モノアリ。銅ノ位ニ生レツキタルモノアリ。鐵ノ
 位ヒ。鉛ノ位ヒニ生レツキタルモノアリ。學文ニ

テ磨キサヘスレハ其生レツキノ光リ丈クハ必
 ス出ルモノナリ。是ニヨリテ其所作トテモ其位
 丈クノ事ニテ其餘分ハ用タチガタキモノト云
 フコトヲ能クワキマヘテエラミ使フヘシ鐵ヲ
 使フ場所へハ。ナマリハ用立チガタキ理ナリ。又
 鉛リハ。如何ヤウニ。ミガキテモ銀ノ光リニハナ
 ラ予也。時アリテハ鉛リ。デナケレハナラヌ場所
 モアリ。其人ノ得手不得手ヲ目利シテ用立チサ
 スルモ是ト同ジ道理ナリ。何分ニモ人ハ根氣強
 クシテ物ニアカズ。果敢忠誠ニノ道理ヲ見ルコ

度
 香
 卷二

ト早キモフニアラザレハ用立チガタシト知ル
ヘキナリ
サテ家老重臣タルノ六ヶ敷ハ器量用立チリス
ル人ヲ目利スル計リデナク小人奸人ヲモ能ク
目利メ退ケ子バナラヌナリ宋ノ王安石宰相ニ
カリシオリカラ天下ノ人ミナ能キ宰相ヲ得タ
リト悦コビシニ呂獻可一人カタギリテ國事ヲ
敗リ民ヲ害スルモフハ必ス此ノ人ナリト云ハ
レシガ果ノ宋ノ天下ヲ弱メタリ是ヲ以テ人ノ
善惡ヲ目利スルガヒタル人ノ第一ノ事ト知ル

ベシ

九方生曰。聖人ノ御詞ニ其人アレバ其マツリ
ゴト舉ク。其人カケレバ其マツリコト熄ムト
アレバ如何ヤウノ善キ政事仕方アリテモ其
人ヲ得ザレハ其政事ヲ取アツカウコトハナ
ラヌナリ。殊シテ改革ノ節ナドニハ其人ガ節
一入用ナリコレヲ圍碁ニ譬レハ政事ハ棋盤
棋石ナリ其政事ヲトリアツカウハ碁ノ手ナ
リ盤石ハ備リアレト妙手ヲウツ人ニアラザ
レバ棋ヲウツトハ云ガタシ下手ナルモノ

棋ヲ圍ムヲバ。側ニ見居テサヘ片腹痛キモノ
 ナリ。別ノ國家ノ事ハ庶民ノ死生苦樂ニモカ
 、ワルモノナレバ。コノ妙手ヲウツ人ガ肝心
 十思ハルナリ。余故ニ此條及ヒ次條ヲ拔テ是
 ラ此篇ノ第一第二ニ置クモノ然リ。○原本ハ
 人ヲ使フハ義ヲ勵スノ條ノ下ニアリ

良カラザル家老ニ國事ヲ任スレバ。其君恥
 辱ヲ受ル論

サテ事ヲ解サズ人ノ目利モ出來ズ智略ナキ家
 老ニ國事ヲ任ズレハ。亂世ナレバ。其國ヲウシナ

ヒ治世ナレハ國政衰へ勝手向キワヤクニナリ
 テ。其君恥ヲ受ルノミナラズ武威地ニオチハテ
 一家中ハ勿論ナリ其國ノ百姓町人ニテモ甚ダ
 難儀ニ及ブモノナリ。サテアシキ家老ト云フハ。
 已レ器量ナキノミナラズ。負ケ惜ミ強ク已レニ
 勝レルモノヲバ忌ミ嫌フモノナリ。ステニ前ニ
 モ述シ如ク重臣胸狹クノ妬心深キハ大疵ナリ。
 殊ニ下ニアル人器量アレバ人情ニノ小ヅラ惡
 シト思フ氣味アルモノナリ。胸狹クシテハ人材
 フエラミテ用ルコト。アタワズ

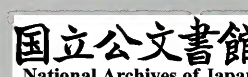
世祿ノ家格ニテハ家老ノ下ニ政事ヲトリ行フ
ノ要役ヲ立テ平士中ヨリ明達ノモノ足高ニテ
引出シ用ユベシ。肥後藩ニイヘル大奉行是ナリ。
何分廣ク能アルモノヲエラハザレハ何事ニ付
ケテモ下手ヲウツコト多クシテ國ノ大損ナリ。
タトヘハ下手醫師ニ任セテ其身ヲソコナフト
同ジコトニテ安スモノ、錢ウシナヒナリ
且又上ニ立ツモノ忠誠ナレハ下ノモノハコレ
ニセリタテラレテ用立ツモノモ追ク出來ルナ
リ又能ナキ輩モ能アルヤウニナリユクベシ。譬

ヘハ藤樹先生ノ徳化近邊ノ村クニ及ヒテ路ニ
落シタル金ヲヒロハザルニ至ル類ナリ。又一郷
ニ碁ノ強キモノ一人アレバ其近郷ニモ相應ニ
碁ヲウツモノ出來ルト同シ。兎角國ノマツリゴ
トハ其人ヲ用ルニアリ。三國ノ劉玄德襄陽ノ司
馬徽ヲ訪フテ天下ヲ平ルノコトヲ尋子ラレケ
レバ其答ニ儒生俗士何ゾ時務ヲ知ラヌヤ時務
ヲ知ル者ハ俊傑ニアリト云ヘリ。コトニ語深ク
味ノベキ名言ニテ時務トハ時ノツトメト讀テ
リシ當リ。セ子バナラヌコト、云フ義ナリ。俊傑

世祿ノ家格ニテハ家老ノ下ニ政事ヲトリ行フ
ノ要役ヲ立テ平士中ヨリ明達ノモノ足高ニテ
引出シ用ユベシ。肥後藩ニイヘル大奉行是ナリ。
何分廣ク能アルモノヲエラハザレハ何事ニ付
ケテモ下手ヲウツコト多クシテ國ノ大損ナリ。
タトヘハ下手醫師ニ任セテ其身ヲソコナフト
同ジコトニテ安スモノ、錢ウシナヒナリ
且又上ニ立ツモノ忠誠ナレハ下ノモノハコレ
ニセリタテラレテ用立ツモノモ追ク出來ルナ
リ又能ナキ輩モ能アルヤウニナリユクベシ。譬

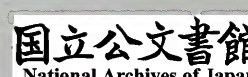
十八千人萬人ニモスグレタル卓識ノ人ト云フ
コトナリ。古今ノ書ヲ讀ミチンフンカシク云フ
儒者。又小資キオアリ又武勇アル人ニテモ。卓識
ナキ俗物ハ役ニ立ツモノニアラス。タ、役ニ立
ツベキモノハ俊傑ノ人ニコソカギル。コノ俊傑
ノ人コソ當時サシ當リテ天ヲ平グル先
シリタルゾキ云フコトナリ。實ニ玄德ト云フ人
曹操トクラブレバ。手ツ、ノ上身上モ小サク中
く操ト敵對ハ出來マジキ人ナリ。タ、徽ノ言レ
シ諸葛孔明一人ヲ得テ。コレニ任セシユヘ遂ニ

三國鼎足ノ大業ヲ開カレタリ。關羽張飛トテモ。
孔明ナカリセバ。タ、戰陣ニ臨ンテ五十騎カ六
十騎カノ働キヲナスニ過ギズ。シテ玄德ニ大業
ヲ成サシムルコト能ハズ。是以テ人君ハ器量入
ル臣下ヲエラミモチユルカ一大事ナリ。恐レ多
クモ。故白川侯ヲ 御加判御輔佐ニ御用ヒアリ
シ折カラ世ヲ風儀正クナリ。備前芳烈公。熊澤次
郎ハヲ重ク用ヒラレ。肥後靈威公。堀平太左衛門
ト云フ平士ヲ重臣ニ舉ケモチヒシヨリ。肥備ノ
二藩文武ノ士風トナルハ。實ニ人ヲ目利スル器



量ノリト云フベク。是皆一轍ノ美談ト以聞ヘケ
制度ヲ固ク立ルハ善政ナルヲ論ズ。善政
介幼キ時ヨリ諸葛武侯ノ人ガヲ并ニ其所作
行届キテ指ノ先ニテ。キント遺漏ナキニ心醉シ
及ハヌコトカガラ。吾モ人ナリ事ニ當ラバコソ
人ヲ手本トナサバヤト心中ニ思ヒ侍レテモ人
ニ語ラバ狂人ト言レント存メ。遂ニ人ニ公カタ
ラザルナリ先儒或ハコソ公ヲ申韓學ナリト申
ミシ兵ヲ用ルハ所長ニアラズナト論スルモ

ノアリ。實ニ心ナキ鼠輩ナリ。叔公ノ國ヲ治メ師
ヲ出スニ付テモ。法度ヲ嚴クシ賞罰ヲコメカニ
論シツメテ誰レアリテ怨言ヲ出スモナク。罰
セラレタル輩ヲモ公ノ死ヲ聞テ涕泣スルニ至
ルハ。實ニ大徳トモ仰ギ奉ルベシ。國家ヲ治ムル
モノハ必ラス此ノ公ヲ模範トシテキモノナリ。
サテ近來諸侯方ノ制度嚴ク立タル家ハ。困窮ニ
至レト格別大崩レニ至ラズ。覺ベキノ政事存
シアリテ國民上ヲ侮ラザルナリ。腐儒輩事ヲ解
サズ法度ヲ固ク立ツルハ。申韓ノ流ナド。胡椒



丸吞ニ賤ノ臣コレハ時勢ヲ知ラザルノ愚論ナ
リサレバ王道ヲ迂曲云フニハアラス矢張り制
度正シケレバ則チ王道ニシテ差別ナキモソナ
リ諸事ノ裁判宜キヲ得ルコソ真ノ政道也云
フベシ殊サラ唐土三千年以前ノ人情ト本朝
今日ノ人情トハ大相違ニテ太古ヨリ唐土我邦
トハ國ノ建方モ振合ヒ違フテ唐ハ國境ヒ三夷
ニ接ハリ明主ニアラズシテハ治メカタキユヘ
堯ノ大聖早クモ其意ヲサトリ土民ノ舜ニ天下
ヲ讓リシナリ我ガ皇國ハ大海中ニ特立シテ

難有ク神國ナレ公百王一姓ニテ千古以來相代
ラズ治リアルナリ何レニモ神ト聖トノ御心ハ
同シケレハ天理ニ合フ道理ハ一致ナリ是ニ准
ノ我ガ國ハ世祿ヲ以テ門地ヲ貴ヒ門地ナキモ
ノヲ卑ムモ異國ニナキ一美事ナリ是以テ制度
ハ其國ノ摸樣ニヨリテ立ルヲヨシトス和漢ト
モ二事ハ違フテ理ハ同シコトナリタゞ其根本
ハ誠意正心ノ四字ヨリシテ天理自然ニ隨フテ
設ケザレバ行レガタシ上ニ立ツノ方クヘハコ
ノキウノ道理モ御承知アラセ度モノナリ

九方生日。國ノ制度ハ碁盤ノ目ノ如シ。如何ヤ
ウノ妙手ニテモ。目ナキ碁盤ニテハ手ハウタ
レヌナリ。余故ニ又此條ヲ按テ第三篇ニ置ク
モノ然リ。○原本ハ濬祠ノ條ノ上ニアリ
ハ事ヲ省クガ善政ナル事ヲ論ズ
凡ソ治世永ク續ケバ諸事繁雜ニナリテ其内ニ
無益ナル事ヲミフヘテ雜費多キノミナラス人
手間モ大勢ニナルモノナリ。ソレ故ニ相成ルタ
ケ事ヲハブキ減メ人手間ノカ、ヲヌヤウニス
ルヲ眞ノ儉約トモ云フベシ。金銀ノ費ハ勿論ナ

リ人カヲ省フクモ儉ノ根オナリト心得然ル
ベシ。當時諸家ノ役人ノ所作ヲ見ルニ本ヲステ
、末ニ走リ兒戲ニ類スルコト多シ。無用ノ事ハ
是非ニ一切省フキ除クニヨリシ。痛クハブキ除
キテモ上代ニ比ブレバ相應ニ諸事繁多ニナル
モノナリ。諸役所向ノ帳面世代ノ佛事ニテモ年
々ニ増スト同シコトナリ元ノ憲宗其臣耶律楚
材ニ天下ヲ治ル要メナル事ヲ問ヒ玉ヒシカハ
楚材ノ答ニ一事ヲ生スルハ一事ヲ減スルニシ
カズ。一利ヲ興スハ一害ヲ除クニシカズト云ヘ

リ。蓋シコノ趣意ハ一ツノ善事ヲクハダツルヨ
 火ハツ一ノ惡事ヲ除キ去ルガヨロシ一ツノ利
 分ヲ興シクハダツルヨリハ一ツノ無益ノ費ヲ
 ハブキ去ルガヨロシト云フコトニテ。何事ニヨ
 フズ仕來リノコトニテモ不用ノ事無益ノ事ヲ
 停止スルガヨロシク。又善人ヲ舉ケ用ルヨリ如
 何ヤウノ人ニテモ國家ノタメニナラザル小ハ
 ハノゾキ退クルガヨロシト云フ事ガコモリア
 ルナリ。コノ手本ハ堯舜ノゴトキ大聖スラ四凶
 ヲ放チ。鯀ヲ極シ孔子ノ至聖スラ少正卯ヲ誅ス

コノヤウノ事ハ誰セ知リタルコトナレトモ別ノ
 當時一番ニ入用ノコトガラユヘコトニ論ズル也

政事ハ寬ヨリ猛カヨロシキ論

金主雍ト云フ王ハ小堯舜トモ呼レタル仁君ナ
 リ其志シモトヨリ慈仁ノ生レツキニテ眞ノ治
 國安民ニ骨ヲ折ラレシ君ト見ヘケルガ其群臣
 ニ語エシ言ニ政事ニオヒテ寬慈ヲ本トスル
 ハ。コノ上モナキ美事ナレト云フ人術ハ實ニカタ
 シ。我ヲ如キ者ニテハ賞罰ヲ濫レザルヤウニス
 ルガ眞ノ寬政カト言レシコトニ言味ヒテ

唐モ日本モ末世ニナリテハ寛慈ト云フコトガ
柔弱ト混シ易クシテ辨シカタシ當時諸侯方
役人寛政ト心得テスルコトガ何レモ寛政ニア
ラズシテ柔弱ニ流レタリ又仁惠ト姑息ト多ク
ハ混シヤスシ又鄭ノ子産終リニ臨ンテ子大叔
ニ遺言シテ格別人盛徳ニアラザレバ寛ヲ以テ
國ヲ治ルハカタシ汝子鄭ノ政事ニアツカラハ
猛デナケ子バユカヌト云ヘリ又寛猛ニツラ水
火ニ譬喻セラレタリサテモ世事ニ心ヲ用ル賢
人ハ後世ノ手本トモナルベキ善言ヲ述ベラレ

タリコレ等ノコトハサシ向キ政事ノミナラズ
諸侯方ノ勝手ムキ改革ナトニハ尤モ肝要ノ一
言也僻邑山陬ハイザ知ラス今ノ都會ノ人氣ニ
テハ孝行ノ人ヲ賞スルヨリハ不孝ノ人ヲ罰ス
ルガキクアンバヒ宜シトオモハルナリ余ガ
家塾ワヅカニ二十四五人ハカリノ書生ナレモ
餘リ嚴ニスギテハ凡へ病氣ノ恐レモアリテ少
シ法ヲ弛ベタレバ忽チ學術進マサルノミナラ
ズ放蕩無頼ノモノニナリテ止メカタキ勢ヒア
ルヲ見テモ法ノ嚴カルハ却テ善政ナリト知ラ

レタリ。且又嚴ヲ以テ虐ト混ズベカラズ。虐嚴相
似テ大ニ相違ナリ。余ガ思フニハ心ハ慈愛ヲ主
トシ行ハ清白ノ務ノ。法ハ嚴ヲ用ユルニヨリシ。
上古ノ事ハイザシラズ。中々今ノ文政年中ニテ
ハ寛仁ヲ以テ民ヲ服シ。人ヲヒキユルト云フハ。
盛徳ノ人ニアラザレハ。マヒリカタシ當持下手
ニ書ヲ讀ム輩ラヤ、モスレバ仁ヲ語り弱ト混
ノ辨シ得ス抑又愚ノ至リナリ。法ヲ斥ケテ申韓
ノ學トスルハ事ヲ解セサルナリ。多人數ハ法ヲ
用ヒスシテハ治マルベキモノニアラス。

賞罰正シキハ真ノ寛政ナルヲ論ズ。其
サテ前ニ述シ金主ノ賞罰濫レサルガ真ノ寛仁
ナリト云フコトニ付テ深ク味フテ見レバ甚タ
難キコトニテ。委曲ニ論シ盡セバ。多クハミナミ
タレテ。的中セズ難有モ。近來故丹川侯ヲ御政事
ノ意味ヲ考ルニ。深ク。右ヤウノ筋ニ御心ヲ苦シ
メ玉フト見ヘタリ。サテ一國ノ政事ナレバ。一國
一城ノ政事ナレバ。一城其賞罰山阪ニテユキト
クキテ。平均セテハ真ノ賞罰ト云ヒカクシタ
トヘバ罰セラル、モノハ俗ニヒトミ御供ト云

ノ類ニテ。雷ニウタレタルガ如クアシ。時劍先キ
ニムキタルヤウナルコト。下ノアルナリ。又賞モ
同様ニテ。其大ノ樞機ヨク。或ハ俗ニ云フ耳。タ
ノヨキカド、申スヤウニオチイリ易シ。ミナ私
恩。ヒイキヨリ出來ルコト多シ。賞ヲ求メ又大ハ
賞ヲ得ルコト少ナシ。兩方共ニ平均ノ甲。ヒナク
幸不幸ナキヤウニスルハ。明主賢臣ニアラテハ
六ヶ敷コト、見ヘタリ。恐レナガラ
有徳廟ノ大岡越州ヲ大名ニ御取り立テアリシ
ハ。アリガタクモ眞ノ賞ト存シ奉ルナリ。自己ノ

寵愛ニテ功ナキモノヲ。ト立ルハ賞ヲ失フス
次第ナリ。今ノ諸侯方。コノ弊ヘ多シ

賞ノ濫レハ私恩ヨリ來ル論
私恩ヲ布クト云フコトハ。卑劣ナル人情ニテ十
人ガ十人。百人ガ百人。ミナ免レガタキコトナリ
併シ政事ヲ執ル人ハ。コノ心ヲ絶ツベシ。殊サテ
遠境ヘ出役スル人ナド。自分ノ役中ノミヲ思フ
テ後ヲカマハズ。又自分ノ轉役前ニハメツタニ
己ガ氣ニ入りタル下役ナドヲ。要路ニ拔擢シテ
小人ヲヨロコバシメント私恩ヲ施スコトアリ

又右ヤウノ人ハ罰スベキコトモ罰セズ。後役ニ
 譲リテ退クモノナリ。老蘇ガ韓魏公ニ奉ル書中
 ニモ當世重臣ノ患ヒハ人ノ我ヲツシルヲ恐ル
 、ニアリトハ右ノ意味ニテ同ク私恩ヒイキン
 沙汰ニシテ賞罰トモニミダル、基ヒナリ賞罰
 ハ政事第一ノコトナルニ。右ヤウノ筋マ、見當
 ルコトアリ。卑劣ナル心得方ナリ。人ハ
 又俗ニ睨ミト云フコトアリテ。上ニ立ツ人下ノ
 者ノ所作ヲ始ニ不圖アシク思フガ自分ノ氣ニ
 觸ル、コトアリテ。始終其心サラス何ニ付ケテ

モソノ者ノオスコトハアシク思フコトアリ。是
 全ク愛憎ノ私心ヨリ出ルコトナレ。凡胸中狹キ
 人ニマ、多シ矢張りソノ者ヲバ格別ニアシク
 ナクテモ。罰スルヤウノコトヲ見聞セリ。上ニ立
 ツ人ノ大疵ナリ。コノヤウナル人ヘハ奸人付ケ
 コミテ讒ヲイル、コトアリ賞罰ノ大ミダレト
 ナルモノナリ。君上重臣ノ尤モ戒メトスベキコ
 トナリ。

愛憎甚ダシキハ賞罰濫ル、論
 サテ愛憎ト云フコトハ俗ニ云ヌ。馬ノ合フ合ワ

又ト云フノ類ニシテ人々ニ必ラスコノ心アル
 モノナリ。別ノ人君又ハ重臣。又ハ器量アル人ニ
 ハナラ多シ。コノ心ハ人情ニテ除キサルコトハ
 出来ガタシ併シ政事ヲナス人ハ必ラスコノ愛
 憎ヲ以テ下ノ士人ヲ褒貶スベカラズ。コノ心ヲ
 振りマハセバ人ヲ見損ズルコトアリ。宋ノ冠準
 ノ如キ名臣スラ。丁謂ヲ李文靖ニ重ク用ヒヨ
 ス、メタレバ文靖ノ答ニコノ人器量ハアレ
 人ノ上ニ立シメガタキ人物ナリト謂レシヲ甚
 ダアシク憤リテ。其後丁謂ヲ重ク用ヒラレテ。其

惡キヲ知リ果シテ後悔セラレシ例モアリ。兔角
 己ガ馬ノ合フ人ヲバヨシト思フコトナリ。且又
 才智アル小人ハ己ガ情ヲ枉ケテ氣ニ合ヌヤウ
 人振ル舞ヒヲスルナリ。賞罰コレヨリ濫レテ嬖
 人ト云フモノ頭ヲモタゲ害ヲナスコト多シ。併
 シ善人ヲ愛シ惡人ヲ憎ムモ愛憎ナレト。コレハ
 明君ニ及ズバレバ。其正キヲ得ガタシ。管仲ノ言
 々鮑叔ハ惡人ヲ憎ミ善人ヲ愛スルコト深キユ
 々宰相ニニアシ、ト謂ヘリ。世上ノ事ハカヤウ
 ナル又矢ガテ多キモノナリ

ハ人ヲ使フハ義ヲ勵マヌニアル論

上ニ立テ下ヲ使フハ量ヲ寛クシテ下ノ者ノ材
幹ノ餘ルヤウニ使フベシ併シ能ク眼ヲ明ラカ
シシテ其者ノ穴ヲ三ヲミツメテ居ルベシ初ヨ
シ任セヌギテハ下手ヲ打ツコトアリソレト云
フモ萬能ノキク人ハ甚ダ得ガタシ何レヨモ穴
ハアルモノナリ數年使ヒ試ミテ任スベシタ
細事ヲコセムトヤカニシク云フテハソノ者ノ
神氣ヲ一ナリテ用ヲナスコト小サシ聖人ノ御
言ニ惠ナレバ人ヲ使フニ足ルトアレヒコレ等

ハ人情ニヨリテ仰ヒノ言ナリ能アル者ヲ使フ
ニハ詞ヲ采擧シテ物ヲ餘計ニツカハサズ臣ヲ
シメクヲ見テ義言ヲ以テ譽メ遣ヌベシ義勇ヲ
勵ケマス功人ヲ使フノ道ナリ俗云クソヤシ
使フコトニハアラズ恐レ多クモハハハハハ
神君様ハ織田豊臣ヲ二公ヨリモ御徳遙ニ勝レ
サセ給フニヤ義勇ヲ以テ能クソ人ヲ御使ヒア
リシト存シ奉ルナリ又唐土壯士ノ言ハ士ハ已
ヲ知ル者ノタメニ死ストハコノ場所ト知ラレ
ケリ

君上諫ヲ納ル、心得方。臣下諫ヲ奉ル心得

方

量十申スモノハ。君タル者。又重臣タル者。盛徳ナリ。古コリ大業ヲナス君ハ。ミナコノ徳ヲ備ヘ玉ヘリ胸中ニ人ノ言ヒ上ルコトヲ納メ容ルノ餘地アルコトナリ。コノ量ナキ君ニハ直言ノ臣下カシ。唐ノ太宗ナドハ。サスガ後世人君ノ鑑トモ。アガメツベキ人ナレバ。魏徵ノ如ク。惡口罵ルヤウナル諫ヲコラヘ納ラレタリ人情ニテ已ラソシル。又心中ニヨロコブ者ハナシ。則チ納ル

ト云ガ。畢竟ハ心中ニ怒リテ。モシツト堪忍ノ

胸中ニ納メ置キ寛クト思案スレバ。自分ノ惡キ事ヲ自然ト心ヅキテ其諫ヲ用ルナリ。明君トテモ左ヤウナルベシ。殊サラ器量アル人ニハ負ケ惜ミツヨシ。是ヲ以テ下タル者ハ。上ノ氣ニ合ハヌコトヲ言フハ。危キバカリデナク。人情ニ嫌ヲコトニテ。忠憤義烈ノ士カ。又ハ律義一偏ニ。上ヲ大切ニ思フモノデナクハ。諫ヲ奉ルコトナカルベシ。俗情多キ庸人ハ小智アリテモ。君ノ威ニ觸ルコトハ申シ出ルコトス。マジキナリ。故ニ

人君勉メテ其事ノ善惡ニ論ナク其座ハ納レテ
 遣ハサルベキコトナリ。聖人ノ御戒メニ邦道ア
 レバ言ヲ危久ストアリテ。聰明人君上ニアラレ
 レバ直言シテ徒ラニ身ノ害ヲ招クコトナカレ
 トノ事ナリ。サスレバ直言メ上ヲ諫ルモ甚タカ
 タク。又堪忍ノ其諫ヲ納ル、モカタクコトナリ。
 君臣共ニ心得ベキノ大事ナリ。併シ臣タルモ人
 其君道ニソムキ國家ニカ、ハルコトアリテス
 テ置キガタク時ハ。其身ノ利害ニカ、ハラス。命
 フステ、諫ムベシ。君臣ノ間ニハ自己ノ利害ヲ

顧ルコトナシ一死決斷ハ天理ヲ貫ク精忠ヨリ
 出ル人臣ノ貞節ナレバ。其君聞入レタマハザル
 コトハアルマジキナリ

サテ又臣タル者ノ心得ベキハ。君ヲ諫ルニハ必
 ラズ其君御用ヒアルヤウニ諫ルヲ忠良ノ筋ト
 モ申スベシ。下手ニ諫メテ其身ニ害ヲ受ケ其君
 ニモ惡名ヲトラスルハ。其心ハ忠ニ似タレモ良
 臣トハ云ヒガタシ。如何ヤウニモ方便シテ。其君
 用ヒアルヤウニ諫メベキコトトナリ。魏徵太宗
 ニ奏メ云ク。臣ヲノ良臣タラシメテ。臣ヲノ忠臣

クラシムルコトナカレトハ面白キ味ヒアル言
ニテ。忠臣トハ比于伍子胥ノ類ニシテ。良臣トハ
伊呂蕭曹ノ類ナリ。○此于ハ殷ノ紂王ノ臣。伍子
胥ハ吳王夫差ノ臣。此二人ハ皆君ヲ諫テ歿スル
モノ。伊ハ伊尹商ノ湯王ノ臣。呂ハ太公望周ノ武
王ノ臣。蕭ハ蕭何曹ハ曹參漢ノ高祖ノ臣。コノ四
人ハ皆君ヲ諫テ帝王タラシムル人ナリ。
神君ノ御言ニ。家來ニ異見ヲ加ルハ。人ノ聞ヌヤ
ウニ呼ヒ出シ。其者ノ平生ノ善事ヲ譽メテ。然ル
ニ。コノ度ノコトハ其善事ニ不似合ノ事ナド、

云フガ。異見ノ仕ヤツナリト仰セ玉ヘリ。コレ等
ハ誠ニアリガタキ金言ニテ。上ヨリ下ノモノニ
向フテスラ。右ヤウニ云フガ。ハ。マ。リ。ヨ。キ。理。ナ。レ
ハ。殊。サ。ラ。上。へ。向。テ。ハ。王。夫。メ。如。何。ヤ。ウ。ニ。モ。上。手
ニ。申。シ。諫。メ。子。バ。ナ。ラ。ヌ。カ。リ。サ。テ。コ。ノ。御。言。ハ。上。ヨ。リ。下。へ。異。見。ノ。手。本。ノ。ミ。ナ。ラ。ズ。下。ヨ
リ。上。へ。諫。メ。ノ。手。本。ト。モ。又。ガ。メ。奉。ル。ベ。シ。臣。タ。ル
モ。ノ。胸。中。ニ。銘。シ。置。ク。ベ。キ。コ。ト。ナ。リ。真。ノ。聰。明。ノ
君。へ。ハ。諫。メ。方。烈。ク。テ。モ。隨。分。ハ。マ。ル。コ。ト。入。ル。ベ
ケ。レ。也。一。通。リ。ノ。庸。君。へ。ハ。隨。分。和。ラ。办。三。人。ノ。聞

大正八年三月三日

又所ニテ諫メ奉ルベシ。太宗久如キ英主ニテモ
朝廷百官ノ前ヒテ諫ムレバ已ラ辱カシムルヤ
ウニ思ヒ違ヒモアルモノナレバ。人情負々惜ミ
ノ病ヒアレバ。其座ノ顔ノ立ツヤウニ諫メ奉ル
ベキ事トモナリ。其夕日シカラス君臣
シテ諸侯方ニヨリテ。重臣ト君ト其夕嚴重ニノ
疎遠ナルノ家格アレバ。其夕日シカラス君臣
ニ親ミナケレバ。諫メ奉ルニモ廉タチテアシ
故。白川侯ノ御記録ニ。不意ニ御家老ノ宅へ御入
アリテ。其家内ニデモ殘ラズ御目通リニ。呼ビ出

シ親ク御話シアリテ。其家ニコシラヘ合セノ團
子ナシ。召シ上ラレ御歸ノ事見ヘダリサスガニ
明君ノナサレ方ハ。庸君ノ心得トハ大相違ナリ。
角アツテ。コソ真ノ君臣トモ云フベケレ宋ノ太
祖雪夜ニ。宰相趙普ノ宅ニ。近習兩三人ニテ幸シ
玉ヒ。趙普ノ妻ヲ嫂クサ呼ビ雞ノ炙リモノヲ。召
シ上ラレ。江南ヲ平クルノ太計ヲ相談シタルモ。
英雄ノ所作ハ。ホト一致ニシ。唐モ日本モ。手本ト
スベキコト共ナリ。

酒ヲ戒ムルハ國益ヲ興シ惡風ヲ除クノ兩

全ナル事ヲ論ズ。近來酒ヲ飲ムコト。都會ハ勿論ナリ。田舎ノ山奥
亦モ大流行ニテ。世界ノ甚ク困窮スル基ヒナ
リ殊ニ身ヲ働クベキ族ラハ。ナラ以テコノ酒
ニテ。蒸穀ヲ費スソミナラズ。其所業ヲ懈ルニ至
ルモソナリ。如何ニ云フニ。酒ハ人ヲ醉シムル
徳アリテ。酒ノ氣ヲカシバ。已テ知ラズ。陽氣沸キ
アガリテ。神氣盛ニ相成リ。平生ニ出來ガタキ
事モ。自然トスラ。出來ル心持ニナリ。都會ナレ
ハ。其座ヨリ。遊所ナドヘ行クヤウニナリ。金銀ノ

算用モ忘レ。田舎ナレハ。遊ヒ睡リテ。其所業ヲ懈
リ。博奕淫行種々善カラザル事ヲ思ヒ付キツ、
マル所ハ國ノ風俗ヲ傷フニ至ル殊シラ。若輩ノ
妻女マデモアヒヨスケヨナド、申スワケニテ。
友ヲコシラヘ酒ヲ好ムモノ日増ニ多クナリ。世
間一流ノ損失トナリ。近年ノ如キ餓殍アルニ至
ルナリ。是ヲ以テ漢ノ世ナシニハ。數人打寄り酒
ヲ飲ムコトヲ禁ズルノ例アリ。殊ニ昭烈帝蜀ヲ
治メシ砌リ。別夕心ヲ用ヒ酒ヲ釀スル事ヲ固ク
禁スルノ命ヲ下サレシトナリ。實ニコレ等ハ世

ラ救フノ仁心ヨリ出タル筋ニテ世ノ手本トモ
云フベキ善政ナリ。既ニ申年以來ノ飢饉ニハ告
ルコトモナキ良民モウエ歿シタル事ニ天子
ノ目モアテガタキ次第ナレバ差當リ世ノ中ノ
アリサマヲ見ルニ世間ノ困窮三四分通りハ飲
酒ノ流行ニヨルコトモ存ズルナリサレバトテ
右ヤウニ流行シタルヲ禁スルコトモナルマシ
ケレバ嚴令ヲ下シテ永ク釀酒ノ分量ヲ減シ度
コトナリ。又深キ考ヘモアレドモ二ハ略ノ論
セズ。近來ハ世上一同ニ葬式佛事ニモ事ヲ解セ

本行記 卷二

十一

ザル族ヲハ狂醉ニ至ルヤウノフリニテ聖教ヲ
破リ吉事ニ於テハ客ヲ醉倒サスルヲ禮ノ如ク
ニ覺ヘ遂ニハ人ヲ毒ノ病ヒヅカシムルヤウナ
ル儀モマ、見當ルコトアリ馬鹿ノ天上トモ云
フベシ。カクノ如キ事ハ近世ノ弊風ニテ古ハ決
ノナキコトナリ。夕、酒ハ各杯ニテ獻酬度クニ
及ハズ。客ニモ思フタケ飲シメ。ホドヨク互ニ喜
悅スルヲ酒ノ徳トモ云フベシ。又俗ニ寢酒ト云
フテ妻子ト一杯酒ヲ用ユルガ眞ノ飲酒トモ云
フベク又賤夫方レバ草臥レ休メト云フテ茶碗

破録 話 卷二

十一

酒ヲ飲ムガ實ニ百樂ノ長トモ云フヘキワケニ
ノ。人生ニ益アリテ。酒ノ妙用トモ稱スベシ聖人
ノ教ニ酒ハ量リナシ亂ニ及ハズトアレバ今日
ノ酒宴ハ禮ヲ失フテ。中頃ヨリ末ハ皆已ニ亂ニ
及ビアルナリ。如何ヤウトモ制度ノアリタキモ
ノナリ

國益ハ農業産業ヲ勸ムルニアルヲ論ズ
其ノ國益ト申スハ一言ニ盡キタルコトニテ。農
業ヲ勸メ産業ヲ勵メ。國中ニ懷手シテ食フ者
ノナキヤウトニスルナリ。都テ國民游惰ナルハ衰

徽ノ基也。サテ近來何レノ國ノ人民モ。百姓家
ニツダチヌル輩ヲ町人ノ榮華ヲウラヤンテヤ
、モスレバ商人ニナルモノ多シ。百姓減ノ商人
フヘルハ。日本國中ノ損失ニテ。自國ハカリノ損
失ニアラザルナリ。江州ノ民ハ他國ニアキナヒ
ノ。他國ヨリ金銀ヲ集メ歸リテ其國ノ益ニナル
ヤウナレ。天下ノタメニハ損ナリ。如何ントナ
レバ。例レノ國モ田地砂入り山崩レナド多クレ
。村々雜費ヲ厭ヒ引合ヒアシキヲ嫌フテ其下
、ニ打ステ置キ檢見ヲ受ケテ永ク荒野トナリ。

領主ノ物成リ自ラヘリ。開發ノ田面モオビタシケレ。年々荒ニツクノ田地モ少ナカラズ。何レノ國モ百年前ニ比スレバ領主ノ物成リ減ズルコト聞及ヘリ。惜ムベキコトナリ。郡奉行代官ノ輩ヲ。コノ所ニ目ラ配リ。百姓ヲ實意ニトリアツカヒ。荒レタル田面ヲ世話スルガ。眞ノ興利トモ謂ベシ。サテ家中小祿ノモノ妻女ナドヘハ。必ラズ産業ヲ教ユベシ。心得チガヒノ士人ヤ、モスレバ。士タル者産業ヲ營ムハ。庶民ト同據方ド、云ヒナ

石見守行記 卷二 三十三

シ。恥トオモフ族モアレ。産業ハ人タルノ道ト孟子ニモ述ベラレタリ。唐ニカギラス。本朝ニテハ。ソノ昔シ。天子ノ御后御手ヅカラ蠶ヲ御飼ヒアリシ例モアリ。士人ハサテ置キ高貴ノ御方モアツバサレタル事ト見ヘタリ。サテ産業ヲ營メバ。儉約ノ道ハナラハズノ知ルモノナリ。其ワケト云フハ。終日ヲ働キワヅカ五十文。ガ百文トカニスギザルユヘ。金銀ノ得ガタキ冥加ヲ知リ一匹ノ魚モ買ワテ食ヌヤウヲ筋ハ。思ヒ付カズ儉ノ道。已レトサトリ得ルニ至レリ。コレハ自己ノ

技家ノ行記 卷二 三十三

骨折リ。容易ナラザルユヘ金銀ノ尊キヲ知リテ。
ミタリニ使フコトヲ出来ヌヤウニナルナリ。當
時諸侯方々家中ワヅカニ五十俵百俵ヲ取ルモ
ノ、妻女其分限ヲシラズ。衣裳ヲ曳ス。下女
ヲ使ヒ。其心入レハ。カヘツテ賤シク。町人ニ金銀
ヲ借り納レテ世渡リスベキ事ニコ、口へ小人
閑居ノ不善ヲナスト云フヤウノ場ニウツリ。善
キ事ハ思ヒ付カス。人倫ヲ傷ルノ醜聲。聞ユルニ
至ル。是皆産業ヲイナムコトヲ知ラスシテ。閑
暇多キヨリ來ル事ニテ。苦ク敷アリサマナリ。

又諸家トモニ士大夫ノ家宅其祿不相應ニ廣ク。
庭前裁ナドヲ設ケ殊サテ大祿ノ屋敷ニハ馬場
矢場ニデモアリテ無益ニ膏腴ノ地ヲツブシテ
レバ。孟子ノ教々如ク。右等不益ノ地面ニハ桑麻
野菜ヲウヘツケ國益ヲ興セハ。上ハ天理ニカナ
ヒ下ハ人ミナ澤潤ヲ得テ。士人今日ノ困窮ニハ
至ルマシ。スベテ乘馬ナドハ門外ニテ事足ルベ
シ。孟子ヲ素讀セシ人ハ。早クモ右ヤウノ心付ハ
ナルベキハツノコトナルニ。何レノ國モ心付ヌ
カ用ヒヌト見ヘタリ。サテく書物ヲ外物トナシ

テ聖賢ノ人ヲ憐ミアリテ。渡世ノ仕方マデモ教
 へ施シ玉ヒシニ。用ルモノ一人モコレナキハ。悔
 シキ事ニアラズヤ。且又士人ノ家作り。分限不相
 應ニ廣クレハ。コレモ令ヲ下シテ半減位ヒニイ
 タシ。其明キ地へハ種へ物シテ。一舉ニ興利ト除
 害トヲ得ルナリ。スベテ家ノ廣キハ。雜費カ、リ
 テ損失少ナカラズ。余常ニ謂フ。儉ヲ教ユルヨリ
 産業ヲ勵マスガ。近ミチニ。儉利ニツテ。悟ルト
 ハ。右ノ道理ナレバナリ。重臣ハ勿論ナリ。郡奉行
 代官ノ役筋ハ。右ノ心得アリタキ事ナリ。

人ハ賄賂ヲ堅ク禁ズルガ。國政ノ其本タルヲ論
 人ズ。古ハヨリ。賄賂ト申沙汰。唐モ日本モ之アル事ニ
 テ。國政鈍リ人氣卑ク成ノ基也。創業ノ明王ハ
 右據ノ事堅ク禁ジアルモ。治世永ク讀ケハ自然
 ト弛ミ撓ミテ。イツトナク行ル。人ノ姿ニ成ユキ
 殊夏。諸侯ノ家中杯ハ其毒早ク廻リテ。要役ニ居
 モノハ奢侈ニ流レ。其志卑劣ニ落テ。士氣ヲ損シ。
 富タル町人頭ヲモタゲテ。上ヲ輕ンジ。士ヲ侮リ
 政事崩ル。ノミナラズ。正キ者ハ退キ奸黠ノ小
 政事崩ル。ノミナラズ。正キ者ハ退キ奸黠ノ小

人出頭スルニ至ル。誠ニ忽セニナシカタ事也。禮ハ玉帛ノミナラズ。聖人モ仰アリ。堅ク嚴制ヲ立テ。吉凶スベテ。禮儀音信ハ。何文目トカ何分トカ定ルガ宜シトコソハ思ハル也。音信利届フ互ニ重ク張合フテハ。終ニ賄賂ノ行ル端トモ成ベシ。都テノ惡弊ハ。右據ノ事ガ根源トナリテ起ル也。根ヲサヘ絶テハ自ラ止ムベシ。智者ノ所作ハ末ヲステ本ヲ務ル也。上ニ明主。下ニ賢大夫。ナキ國ハ賄賂沙汰尤モ多シ。宋ノ世ニ或人岳飛ニ。天下何レノ時力定マラント問ヒシカ

破家行記 卷二

十六

ハ文臣錢ヲ貪ズ。武臣命ヲ惜マズ。ンバ則治ルベシト答ヘタリ。皆末世ニハ此通ノ事也。故白川侯ナドハ。專ラ右等ノ事ガ風俗ヲ破ト云事ニ。御目ヲ付ラレテ御心ヲ用ヒ有シト傳ヘ聞ケリ。眞ニ政ヲ執ル者ノ鑑ト崇メ奉ルベキ御方也。サテ公事訴訟斷獄ノ役人ハ。尤モ志ヲ正クノ金鐵ノゴトクニ守ルベシ。人情ニテ思ハズ知ラズ。出直邪正ヲ亂ルヘ有テ。天理ヲ傷フニ至ルベシ。是ヲ以テ。上ニ明君イマシ。次ニ剛正ノ重臣アレハ。其以下ノ者ハ畏服メ。賄賂沙汰決メ行ハル

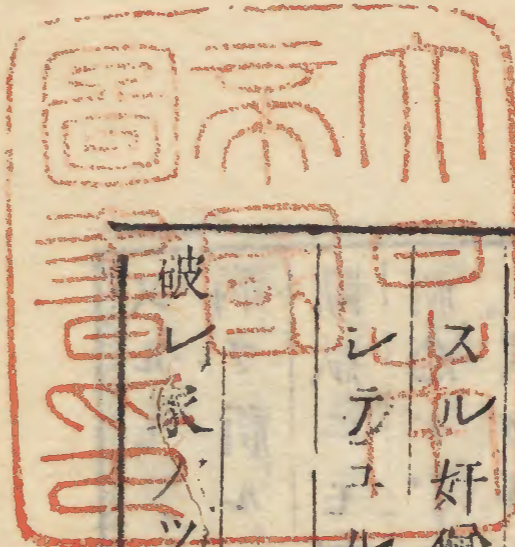
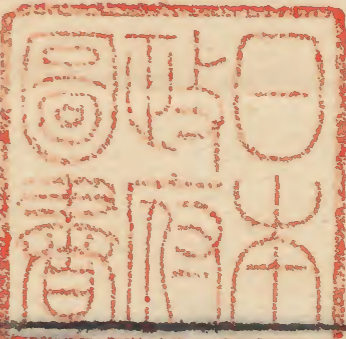
破家行記 卷二

十六

十六

、事有ベカラズ。重臣卑劣ナレハ右様邪正曲直
亂レテ。人民害ヲ受ル事少ナカラズ。五ノ事
此。淫祠ヲ絶ツハ。人ノ惑ヲ解キ費ヲ除ク。善政
ナル論
淫祠ヲ絶ツトハ。ワケモナキ神社ヲ毀ツノ事計
リデナク。祭ルマジキ神佛ヲ絶テ祈念祈禱スル
ヲ堅ク禁スル也。叔世上ニ心ニカ、ル不當ヲ故
人ノ輩カ。又ハ愚陋ニシ。己ガ思案ニモ能ハス大
望ナトヲ企ル族ヲ又ハ。姦吏己ノ罪ヲ竊ニ恐ナ
ドスル輩ハ。必スワケモナキ神佛ニ。祈念祈禱ヲ

スルモノ也。叔婦人女子又ハ賤キ者ノ福ヲ求メ
病ヲ祈ルハ。深ク責ルニ足ス。ヤ、モスレバ政事
斷獄ニモ預ルベキ程ノ人ニモ。訣モナキ神佛ニ
祈念ナドヲ致ス者アリ。是誠ニ聖人ノ書ヲ讀ス
ノ。只物事ニ疑惑ヲスルヨリ。右様淺マシキ思案
出ルモノ也。笑フベキニ餘リアリ。近來正シカラ
ザル神佛堂社。新ニ出來ノ人ヲ惑シ國費ヲ益シ。
政道ニ害ヲナスト少カラス。都會ニテハ奸徒不
正ノ利ヲ得ルタメニ。詐計ヲ廻シテ。企ルト多シ。
有司右等ノトヲ解シテ禁スレバ一舉ノ兩全ヲ
波レ家ノノクリ活



得ルノ道ナリ。忝ケナクモ。水府義公。唐ノ狄仁傑杯ハ。早クモ御心付アリテ。此令ヲ下シ善政ヲ布テ。人ノ惑ヲ救ヒ方ニ也。九方生日。聖人ノ法ニ鬼神時日上筮ニカサテ。人ヲ惑ハス者ハ殺メ。免ヌ事ナシトアリ。上古ヨリモ祈念祈禱上筮ナリ。事ヨリモ惡計ヲ生スル奸僧惡徒少ナカラス。聖人ノ法ニテハ決シテユルジ玉ハ又罪人ナリ。

破レ家入ツ、クワリ話巻中終

明治四 辛未 霜月拾二日東京本志路金
 可於末之價壹未と二百文之

三再月

志心直筆

印

